

ICT ニュース 2022/10 月号

2022/10/18 発行 ICT/感染管理委員

新型コロナウイルスは夏以降減少傾向が続き、水際対策が緩和され、全国旅行支援も始まりまし
た。この中で、専門家が懸念しているのが、これから冬にかけて新型コロナとインフルエンザ
が同時に流行する可能性です。過去2シーズンは同時流行はありませんでしたが、今年は何が
違うのでしょうか？当院でもインフルエンザワクチン接種が始まりましたが、専門家は
接種を推奨しています。どのような事態が想定され、どのように対応すればよいので
しょうか？



今シーズン流行するといわれている理由は

インフルエンザは、東南アジアやアフリカなどの熱帯から亜熱帯の人口の多い地域では1年を通して感染が広が
っています。国際的な人の移動で各国にウイルスが広がる環境ができやすい冬の時期に、大規模な流行を起こす
と考えられてきました。今年も、水際対策などが緩和され国際的な人の移動が大きく増えています。さらに、こ
の2年間国内で流行しなかったため免疫を獲得している人が少なくなっていると考えられています。そして、日
本とは季節が逆でインフルエンザの流行時期が半年ずれるオーストラリアでは、コロナが拡大する前と同じ程度
の流行が2年ぶりに起きたからです。

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の違い

	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症
原因ウイルス	インフルエンザウイルス	新型コロナウイルス
潜伏期間	2～5日	平均5.6日(オミクロンは2～3日)
感染経路	飛沫・接触	飛沫・接触・エアロゾル
主な症状	高熱・関節痛・筋肉痛・咳・ 咽頭痛・鼻水	発熱・筋肉痛・倦怠感・咳・咽頭痛・下痢 味覚嗅覚障害
ウイルス排出期間	発症1日前～発症後5日目	発症2日前～発症後7～10日
致死率	0.01～0.05%	0.03～0.1%
治療薬	タミフル・イナビルなど	対症療法(重症例にはステロイド・レ ムデシビルなど)

インフルエンザワクチン

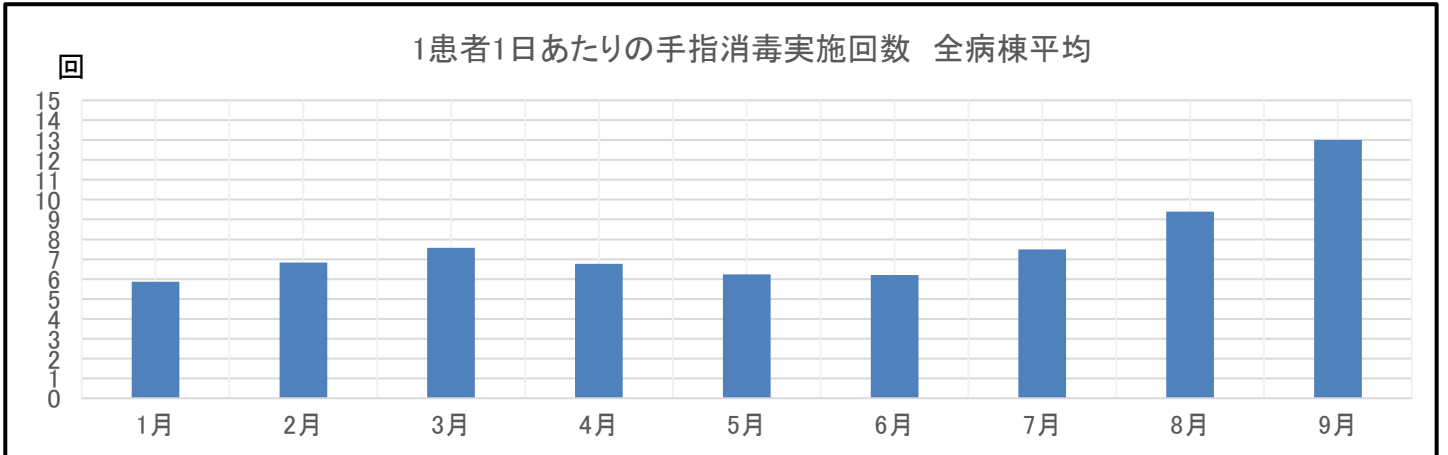
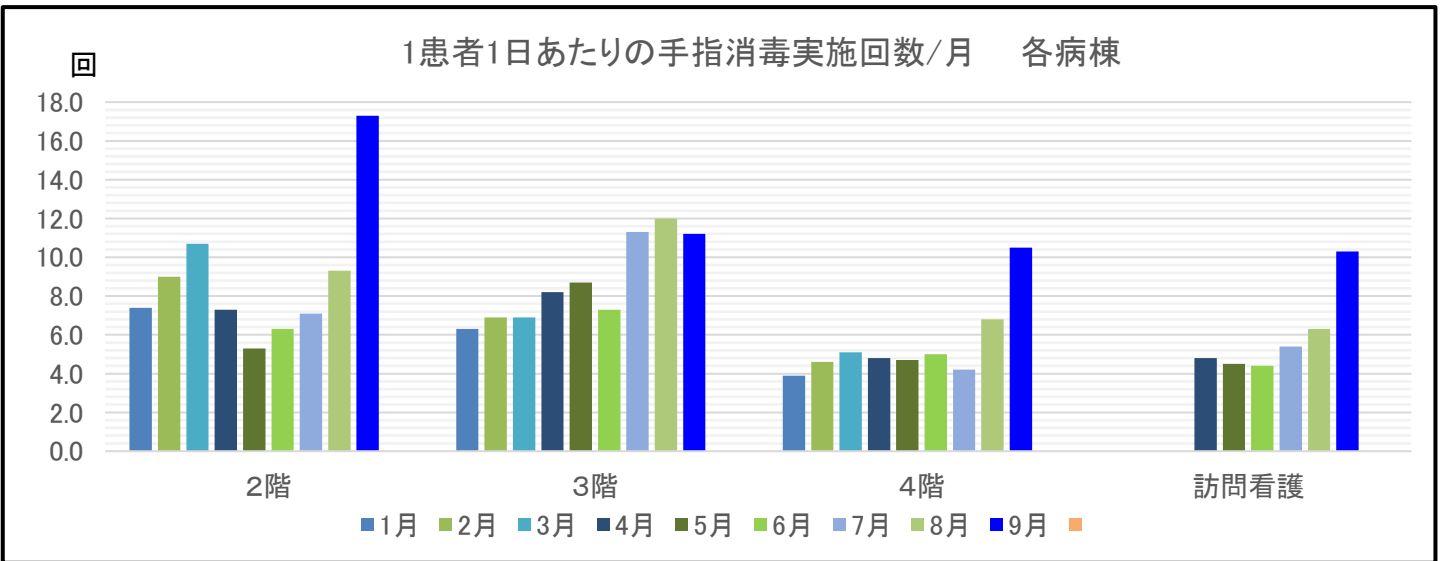
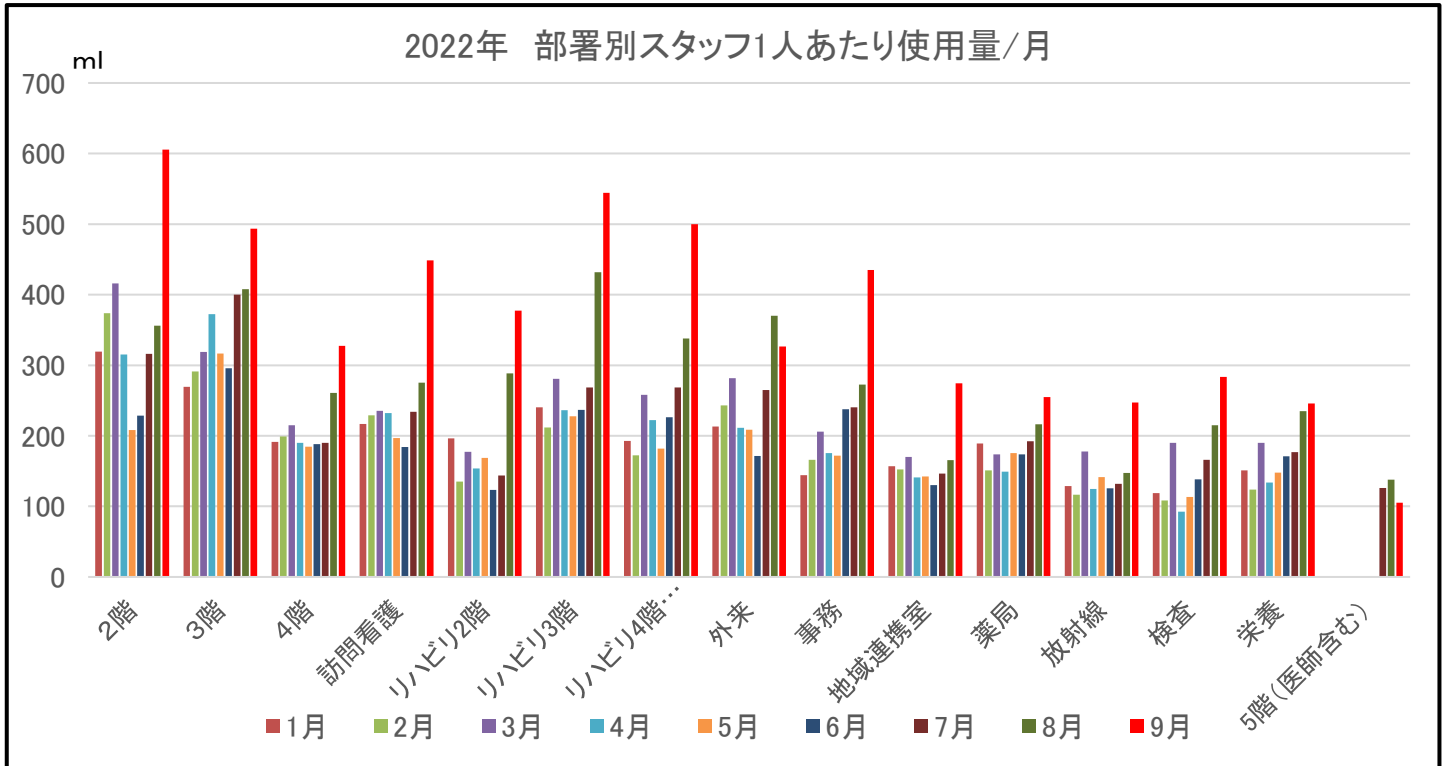
今季に流行の予想されるA(H3N2)を含む合計4種類のタイプのインフルエンザ抗原が含まれます。

A型株(H1N1) A型株(H3N2) B型株(山形系統) B型株(ビクトリア系統)

- ①不活化ワクチンであり安全である
- ②卵アレルギーであっても、全身症状あるいはアナフィラキシーショックを起こしたことがなければ接種可能である
- ③妊婦に接種可能(罹患すると重症化しやすく、死亡率が高い)
- ④癌患者や免疫不全患者にも、接種可能である
- ⑤患者に密接に接触する医療従事者と家族には必須である



2022年 アルコール手指消毒剤使用量報告



★使用量・実施回数とも過去最高となりました。引き続き対策をお願いします